

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3144419号
(U3144419)

(45) 発行日 平成20年8月28日 (2008. 8. 28)

(24) 登録日 平成20年8月6日 (2008. 8. 6)

(51) Int. Cl.

B 4 3 K 29/00 (2006. 01)

F 1

B 4 3 K 29/00

Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2008-4081 (U2008-4081)
(22) 出願日 平成20年6月17日 (2008. 6. 17)(73) 実用新案権者 000003584
株式会社タカラトミー
東京都葛飾区立石7丁目9番10号
(74) 代理人 100074918
弁理士 瀬川 幹夫
(72) 考案者 菊地原 隆
東京都葛飾区立石7丁目9番10号 株式
会社タカラトミー内

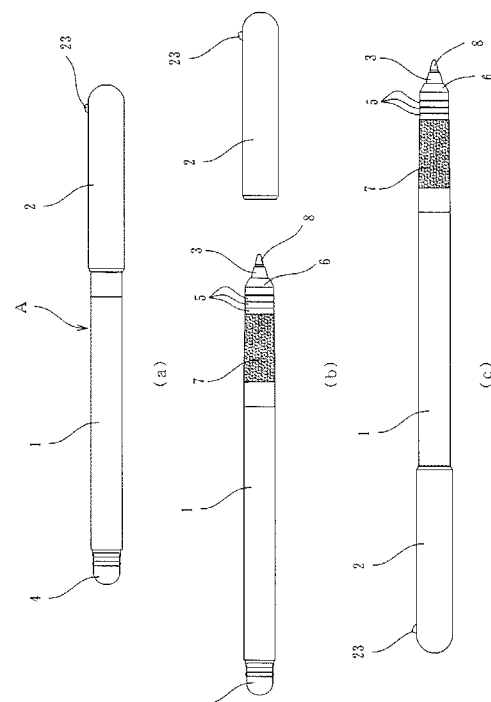
(54) 【考案の名称】 ペン回し用筆記具

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 ペン先を保護するキャップ体を外してペン本体の後端に取り付けた状態で筆記具として使用でき、キャップ体をペン本体の後端に取り付けた状態でペン回しができるようにして、筆記具として使用する際、ペン回しとして使用する際の何れの使用状態においても形態を変化させる必要のないペン回し用筆記具を提供する。

【解決手段】 ペン本体1と、該ペン本体1の先端を保護するキャップ体2とからなり、上記ペン本体1はペン先3に錘パーツ5を着脱でき、上記キャップ体2は錘パーツを保持するとともにキャップ体2内をスライド移動可能な錘保持体を備え、該錘保持体は上記キャップ体2の外側から移動操作可能に形成され、上記キャップ体2は上記ペン本体1の後端に取り付け可能であることを特徴とするペン回し用筆記具Aである。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

ペン本体と、該ペン本体のペン先を保護するキャップ体とからなる、以下の要件を備えることを特徴とするペン回し用筆記具。

(イ) 上記ペン本体はペン先に錘パーツを着脱できるようにしたこと

(ロ) 上記キャップ体は錘パーツを保持するとともにキャップ体内をスライド移動可能な錘保持体を備え、該錘保持体は上記キャップ体の外側から移動操作可能に形成されていること

(ハ) 上記キャップ体は上記ペン本体の後端に取り付け可能であること

【請求項 2】

前記ペン本体はペン先を出没可能にした、請求項 1 記載のペン回し用筆記具。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、ペン回し用筆記具、詳しくは筆記具を指で回して遊ぶために好適な構成のペン回し用筆記具に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、文具店などで市販されているペンを購入し、このペンを手で回すペン回し遊びが広く普及しているが、このペン回し遊びに好適なペンとして本出願人からペン回し用筆記具が提案されている（例えば、特許文献 1）。このペン回し用筆記具は、両端に錘パーツを取り付けたキャップ体を着脱可能に設け、筆記具として使用するときにはキャップ体を外し、ペン回しをするときにはキャップ体を取り付けるものであった。

【特許文献 1】実用新案登録第 3 1 3 8 0 9 7 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

本考案が解決しようとする問題点は、上述の筆記具は、筆記具として使用するときにはキャップ体を外してペン先を露出させ、ペン回しをするときにはキャップ体をペン本体に取り付けなければならない、筆記の途中で考え事をしながら無意識にペン回しをすることができず、使用形態（筆記、ペン回し）によって筆記具の形状を変えなければならないし、筆記中にペン回しをしたくなったらキャップ体を探さなければならないと気分がそがれる問題があった。

【0004】

本考案は、上記問題点を解決し、ペン先を保護するキャップ体を外してペン本体の後端に取り付けた状態で筆記具として使用でき、キャップ体をペン本体の後端に取り付けた状態のままでペン回しができるようにして、筆記具として使用する際、ペン回しとして使用する際の何れの使用状態においても形態を変化させる必要のないペン回し用筆記具を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

前記課題を解決するために本考案に係るペン回し用筆記具は、ペン本体と、該ペン本体の先端を保護するキャップ体とからなる、以下の要件を備えることを特徴とする。

(イ) 上記ペン本体は先端に錘パーツを取り付け可能に形成されていること

(ロ) 上記キャップ体は錘パーツを保持するとともにキャップ体内をスライド移動可能な錘保持体を備え、該錘保持体は上記キャップ体の外側から移動操作可能に形成されていること

(ハ) 上記キャップ体は上記ペン本体の後端に取り付け可能であること

【0006】

なお、前記ペン本体はペン先を出没可能にし、ペン回し時にはペン先をペン本体内に没

10

20

30

40

50

入させることが好ましい。

【考案の効果】

【0007】

請求項1の考案によれば、実際に筆記を行うときはペン先を保護するキャップ体を外してペン本体の後端に嵌めて一般の筆記具と同様に使用できるのでキャップ体を紛失する恐れが無いし、ペン回しをする際は、そのままペン回しができるので、使用形態によって筆記具の形状をかえる必要が無く、筆記の途中でペン回しができ気分転換が図れる新しい発想のペン回し用筆記具を提供することができる。

【0008】

請求項2の考案によれば、ペン先をペン本体の内部に没入させるので、ペン回し時にペン先が人に触れることが無くなり安全性を考慮したペン回し筆記具を実現することができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0009】

図1(a)は、本考案に係るペン回し用筆記具Aを示し、このペン回し用筆記具Aは、キャップ体2の装着時にはペン先3を保護することができるようにし、図1(b)に示すように、ペン本体1にキャップ体2を着脱できるようにして、筆記具として使用する場合はキャップ体2を紛失したり探したりしないように、ペン本体1の後端に設けた回動操作部材4に装着できるようにしたものである(図1(c)参照)。

【0010】

なお、図1(b)において、符号5はリング状の金属製の錘パーツ、符号6は錘パーツがペン先3から離脱しないように固定するゴム等の弾性部材でリング状に形成された固定部材、符号7はゴム等の弾性部材で形成された筒状のグリップ部を示す。

【0011】

ペン本体1はボールペンで構成され、後端の回動操作部材4を回動することによりリフィール8をペン先3の先端から出沒させることができるようにした公知の回転ロック機構を備えたものである。

【0012】

上記ペン先3は、図2(a)に示すように、後部の嵌合部10がペン本体1の先端に嵌装でき、中央の円筒部11にはグリップ部7を嵌装できるようになっている。さらに、前部には錘パーツ5及び固定部材6を取り付ける取付部12が形成され、この取付部12の周面は所定間隔をおいて角溝12aが周設され全体として角波状に形成されている。

【0013】

上記ペン先3は、円筒部11にグリップ部7をはめ込んだ状態でペン本体1に取り付けられているので(図2(b)参照)、錘パーツ5を取付部12に嵌め込み、最後に固定部材6を嵌め込めば、図2(c)に示すように、ペン先3に嵌め込んだ錘パーツ5が外れないように固定部材6で固定することができる。なお、固定部材6の内周面には取付部12の周面に形成された角溝12aに係合する係合凸部6a(図2(a)参照)が周設されているので、意図的に外さない限り固定部材6がペン先3から外れるようなことはない。

【0014】

また、図2(d)は錘パーツ5を2個取り付けた状態を示し、ペン回しをする際のペン本体1の先端部の重さを錘パーツ5の数で調整することができる。

【0015】

キャップ体2はペン本体1から外してペン本体1の後端に配置されている回動操作部材4に嵌めることができるようになっていて、内部には錘パーツ15が錘保持体16で保持されて収容されている。この錘パーツ15は上述のペン先3に取り付ける錘パーツ5と同じ素材、同じ形状のものである。キャップ体2の上面には長手方向にガイド溝17が形成され、このガイド溝17の先端側には第1の係合溝18が形成され、後端側には多数の第2の係合溝19が形成されている(図3(a)参照)。

【0016】

上記錘パーツ 15 は錘保持体 16 で保持された状態でキャップ体 2 内を移動させることができるようになっていて、この錘保持体 16 は、図 3 (a) (b) に示すように、キャップ体 2 の内径と略同じ大きさの円形の基部材 20 の前面に錘パーツ 15 を取り付ける円筒状の取付部 21 が突出して形成されるとともに後面には U 字状に湾曲してバネ部 22 が形成され、このバネ部 22 の先端には操作ボタン 23 が形成されている。

【0017】

この操作ボタン 23 の両側面には係合突部 24 がそれぞれ突出して形成され、キャップ体 2 の内部に収容された状態では係合突部 24 がガイド溝 17 に形成された第 1 の係合溝 18 又は第 2 の係合溝 19 の何れかに係合し、キャップ体 2 の内部で固定されるようになっている。

10

【0018】

なお、取付部 21 の周面は所定間隔をおいて角溝 21a が周設され全体として角波状に形成されている。

【0019】

上記錘保持体 16 をキャップ体 2 の前面から内部に収容すると、図 4 (a) に示すように、係合突部 24 が係合溝 18 に係合し、取付部 21 がキャップ体 2 の前方に突出した状態で固定される。この状態で錘パーツ 15 を取付部 21 に嵌め込み、最後に固定部材 25 を嵌め込めば、図 4 (b) に示すように、取付部 21 に嵌め込んだ錘パーツ 15 が外れないように固定部材 25 で固定することができる。なお、固定部材 25 の内周面には取付部 21 の周面に形成された角溝 21a に係合する係合凸部 25a (図 4 (a) 参照) が周設されているので、意図的に外さない限り固定部材 25 が取付部 21 (錘保持体 16) から外れるようなことはない。

20

【0020】

錘パーツ 15 を取り付けた錘保持体 16 はバネ部 22 に抗して操作ボタン 23 を押下すると、係合突部 24 と第 1 の係合溝 18 との係合が外れるので、操作ボタン 23 を押下したまま錘保持体 16 を移動させれば、錘保持体 16 をキャップ体 2 内を後方にスライド移動させることができ、操作ボタン 23 の押下を開放すればバネ部 22 に付勢されて操作ボタン 23 が上昇し、係合突部 24 が対応する位置にある第 2 の係合溝 19 に係合するので錘保持体 16 はキャップ体 2 内で固定されることになる。

【0021】

30

なお、第 2 の係合溝 19 の何処で錘保持体 16 を固定するかによってペン回しをする際の筆記具全体のバランスを調整することができる。

【0022】

次に、上記構成のペン回し用筆記具 A の使用態様について説明する。まず、図 2 (c) に示すように、ペン先 3 に錘パーツ 5 を嵌め込み、錘パーツ 5 が外れないように固定部材 6 で錘パーツ 5 をペン先 3 に固定する。次に、図 4 (b) に示すように、錘保持体 16 をキャップ体 2 の前部に移動させて取付部 21 を突出させ、突出させた取付部 21 に錘パーツ 15 を嵌め込み、錘パーツ 15 が外れないように固定部材 25 固定した後、操作ボタン 23 を押下して錘保持体 16 をキャップ体 2 の後方に移動しておく。

【0023】

40

上述のようにして、ペン本体 1 に錘パーツ 5 を取り付け、キャップ体 2 に錘パーツ 15 を取り付けたならば、通常の筆記具と同様に、キャップ体 2 をペン本体 1 の先端に嵌め込み、図 1 (a) の状態にする。このペン回し用筆記具 A を筆記具として使用する場合は、図 1 (b) に示すように、キャップ体 2 を外し、ペン本体 1 の後端に設けられた回動操作部材 4 に嵌め合わせ、キャップ体 2 をペン本体 1 の後端に取り付ける (図 1 (c) 参照)。

【0024】

この状態では、リフィール 8 がペン先から突出しているので、グリップ部 7 を摘んでそのまま筆記具として使用することができる。

【0025】

50

この筆記具状態のペン回し用筆記具 A を使ってペン回しをする際は、ペン本体 1 を二本の指で挟んでそのまま、図 5 に示すようにペン回しをすることができる。

【0026】

この場合、リフィール 8 がペン先 3 から突出している状態なので、回動操作部材 4 に嵌め合わせたキャップ体 2 を回動させれば、公知の回転ロック機構（図示せず）でリフィール 8 はペン先 3 の内部に没入させることができるので、回転時にリフィール 8 が手指に当たって痛い思いをするようなトラブルも回避することができる。

【0027】

上述したように、本考案のペン回し用筆記具によれば、ペン本体 1 の先端に任意の数の錘パーツ 5 を取り付け、キャップ体 2 に内装した錘保持体 16 に任意の数の錘パーツ 15 を取り付け操作ボタン 23 を押下してキャップ体 2 の奥まで移動しておけば、キャップ体 2 を外してペン本体 1 の後端に嵌め込むことにより、両端に錘パーツが配置されることになるので、筆記をしながら途中でペン回しも自由にすることができ、従来のペン回し用筆記具のように使用形態（筆記、ペン回し）によって形状を変える（キャップ体を外したり取り付けたりする）必要がなくなり、仕事や勉強をやりながら、気分転換や無意識にペン回しを楽しむことができるペン回し用筆記具 A を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0028】

【図 1】（a）～（c）は本考案に係るペン回し用筆記具のペン本体とキャップ体との関係の正面図

【図 2】（a）～（d）はペン先と錘パーツとの関係の説明図

【図 3】（a）（b）はキャップ体と錘保持体の構造を説明する平面図及び一部切断した正面図

【図 4】（a）～（c）はキャップ体に錘パーツをセットする状態の説明図

【図 5】上記ペン回し用筆記具のペン回し状態の説明図

【符号の説明】

【0029】

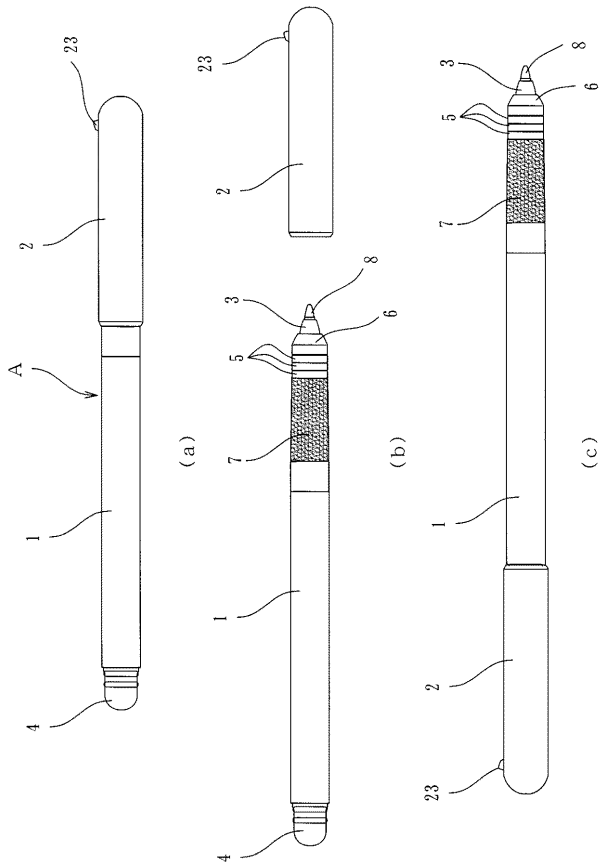
- 1 ペン本体
- 2 キャップ体
- 3 ペン先
- 4 回動操作部材
- 5 錘パーツ
- 15 錘パーツ
- 16 錘保持体
- A ペン回し用筆記具

10

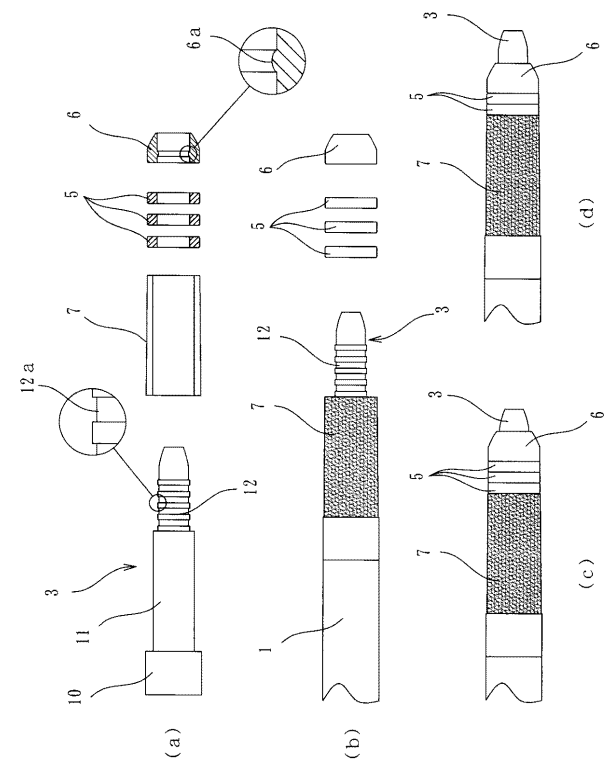
20

30

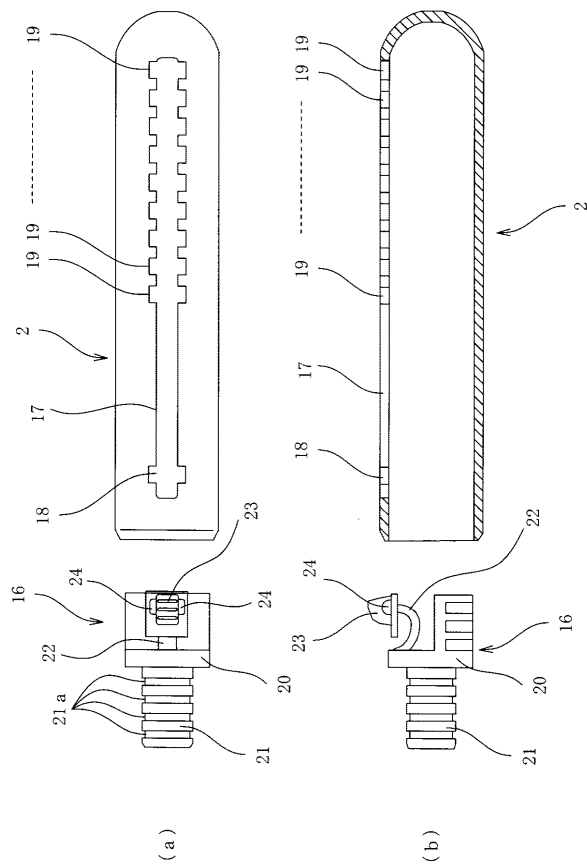
【図 1】



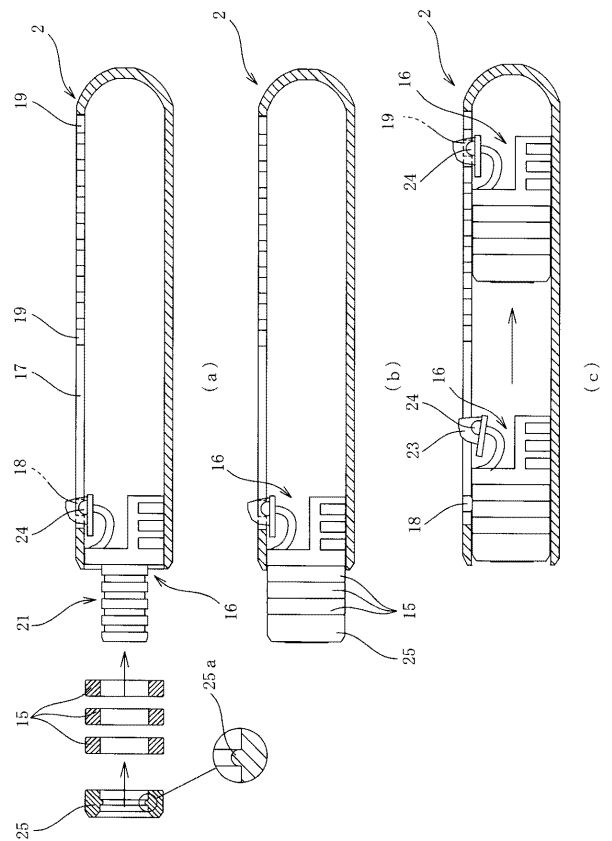
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

